

第54回 全国自治体病院学会 函館

The 54th Annual Congress of JMHA

看護・看護教育分科会（一般演題（ポスターセッション））10月9日（金）

感染管理5 【座長】八雲総合病院 戸田 五代(ICT) (09:00~10:00)

【看-415】アセスメントシートを用いた尿道留置カテーテル早期抜去に向けての取り組み

たかはし ゆきえ

高橋 幸枝

大崎市民病院岩出山分院 看護部

【目的】当病棟は40床一般病棟で入院患者の多くが高齢者であり、尿道カテーテル留置を必要とする場合も多い。しかし、必要でなくなったにも関わらず抜去せずに留置期間が長期化しているのではないかと考えた。その要因として留置後抜去が可能かアセスメントする意識付けが不足していると考えられた。CDCガイドライン2009によると「適切な適応に限りカテーテルを挿入し必要な期間だけ留置する」と早期抜去を勧告している。尿道カテーテルが必要かアセスメントする意識付けをするため、病棟独自のフローシートおよびチェックシートを作成し活用することでアセスメントする意識付けができ早期抜去に繋がると考え検証した。【方法】1. フローシートおよびチェックシートを作成。2. 病棟看護師20名を対象にフローシートおよびチェックシートの使用方法を説明。3. 使用前後に病棟看護師へアンケートによる意識調査実施。4. 調査期間は前期2014年1~6月、後期7~12月。5. 入院後、尿道カテーテル留置した患者を対象とし留置した時点でチェックシートを作成。6. 留置日含め5日目よりチェックシート記入開始。7. 当日の受け持ち看護師がアセスメントを行いチェックシート記入。8. 抜去した時点で調査終了とした。【結果】前期尿道カテーテル留置患者42名、平均留置期間19.7日、平均入院期間29.6日、留置理由「医師指示」が多かった。後期尿道カテーテル留置患者34名、平均留置期間26.9日、平均入院期間40.4日、留置理由「尿閉」が多かった。「尿道カテーテルを留置している患者を受け持ちした時に抜去可能かアセスメントが出来るか」の質問に対し、前期「出来た」10%「時々出来た」55%「出来なかった」35%。後期「出来た」20%「時々出来た」65%「出来なかった」15%となり、前期の「出来た、時々出来た」65%に対し後期の方が85%と高かった。【結論】フローシートおよびチェックシート使用した後期の留置期間が長期となった。要因として後期では入院期間も長く留置理由にも左右されていることが分かった。アンケート結果よりアセスメントの意識付けが出来たとの結果が示されたことからフローシートおよびチェックシートの活用は有用であったと考える。しかし、アセスメントが出来なかったという結果もあることから、原因を解明し今後も引き続き早期抜去に向けてアセスメントの意識付けができるよう働きかける必要がある。

一覧へもどる

The 54th Annual Congress of JMHA